

デンチャースペースの回復できめる 総義歯のかたち

本郷 英彰 著 / 堤 高詞 編集協力



総義歯治療に必須な機能解剖学に基づいて 総義歯のかたちをきめる!

総義歯が入るデンチャースペースは、かつて天然歯列が存在し、周囲組織と協調して機能していた空間ですが、無歯顎患者においては、無歯顎に至るまでの時間および経緯によって、口腔内および周辺の諸組織が変化し、デンチャースペースも本来あるべき空間よりも小さくなってしまっていることがほとんどです。義歯を新製しても安定・機能しないのは、デンチャースペースが十分に満たされておらず義歯と周囲組織との調和が得られていないことも一因です。

本書では、Part1において、無歯顎患者における機能解剖学に基づく総義歯治療の不可欠性と流れを解説した後、Part2においては、上顎を4部位・下顎を5部位に分け、義歯を受け入れる口腔内各部の解剖学的・生理学的特徴と、それを反映した義歯各部の床縁形態付与における留意点を解説しながら、各部の義歯床縁をいかに「機能する形」へ追い込み・作り込んでいくかを、バラエティに富んだ症例を用いて具体的に示していきます。

生体においてより安定・機能する総義歯の形態とは? その答えが読み解ける1冊です。総義歯臨床に携わるすべての歯科医師・歯科技工士の皆様に、ぜひご購読をおすすめします。

● どうして決める? 総義歯のかたち??

CONTENTS

- Graph 1. 模型にみるティッシュコンディショニングによるデンチャースペースの変化
2. ティッシュコンディショニングで回復する口腔内と義歯のかたち

Part1 生体と調和&機能する総義歯形態のつくり込み

～失われたデンチャースペース; 総義歯のかたちを適正に再生する機能解剖学的総義歯治療～

- Chapter 1 従来の総義歯治療と総義歯のかたちに関する問題点を考える
- Chapter 2 機能解剖学的な総義歯治療の重要性と手技
- Chapter 3 治療用義歯によるデンチャースペースの回復法
- Chapter 4 治療用義歯の生理的意義
- Chapter 5 デンチャースペース回復に重要な機能解剖学
- Chapter 6 機能解剖学的総義歯治療におけるデンチャースペース回復のプロセス

Part2 正しく機能する総義歯のかたち

～正しいデンチャースペースと総義歯の機能的形態～

- Region 1 上顎前歯部口腔前庭部周辺の機能的形態と義歯のかたち
- Region 2 上顎臼歯部口腔前庭部周辺の機能的形態と総義歯のかたち
- Region 3 上顎歯槽結節部周辺の機能的形態と総義歯のかたち
- Region 4 上顎義歯床後縁設定域(後口蓋後縁封鎖域)周辺の機能的形態と総義歯のかたち
- Region 5 下顎臼歯部口腔前庭部周辺の機能的形態と総義歯のかたち
- Region 6 臼後三角部(レトロモラーパッドおよび後方粘膜部)周辺の機能的形態と総義歯のかたち
- Region 7 顎舌骨筋線部周辺の機能的形態と総義歯のかたち
- Region 8 口腔底舌側溝部周辺の機能的形態と総義歯のかたち
- Region 9 下顎前歯部口腔前庭部周辺の機能的形態と総義歯のかたち



■A4判・172頁・オールカラー

■定価:(本体12,000円+税) ISBN978-4-263-43352-2

医歯薬出版株式会社
〒113-8612 東京都文京区本駒込 1-7-10
TEL.03-5395-7630 FAX.03-5395-7633
<http://www.ishiyaku.co.jp/>

